

Web展示：
貝が何に使われたか

実際の展示の様子

- ▶ このような形で展示をしました。



ご挨拶

- ▶ 貝は世界中に存在し、様々な地域・時代で使われています。
- ▶ 今回、特に日本とオセアニアの島々の資料から、貝を「素材」・「装飾品」として用いたモノと、貝を「モデル」として形を似せて作られたモノをご紹介します。
- ▶ 本展の展示から、貝というありふれたモノが、人間の手を通して様々な意味を持ち、使用されたということを感じ取っていただければ幸いです。ぜひお楽しみください。

貝を素材としたモノ



貝斧



オセアニアの島々では釣り針や貝斧が使用されました。



シャコガイ製位階章



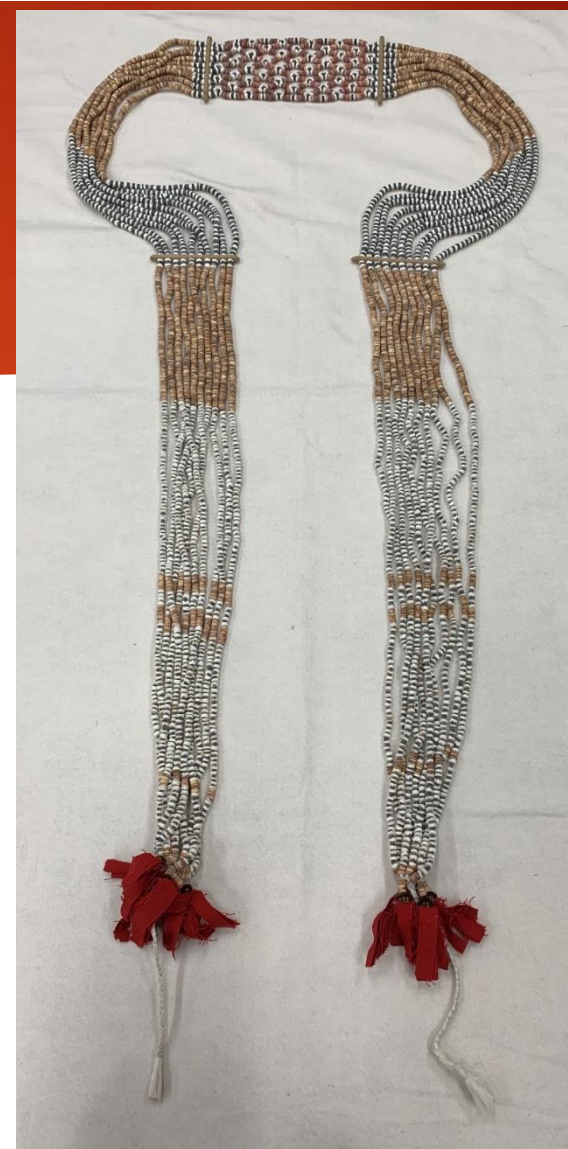
釣り針



磨かれたことで光沢が出ており、魚をおびき寄せるのに効果的です

貝貨

- ▶ 貝貨とは、その名の通り貝で作られた「お金」で、私たちが普段使っている現金が流通する前に作られた、いわゆる原始（原初）貨幣の1つです。
- ▶ 写真は、ソロモン諸島マライタ島ランガランガ・ラグーンで現在も製作されている貝貨です。
- ▶ 赤・白・黒色の4種類の貝から成る貝ビーズを、10本の糸で束ねることで作られた「アクワラ・アフ」という種類の貝貨です。その中でも、中央で糸が網目状に交差するものは特別で、「マイフオ」と呼ばれます。
- ▶ 「マイフオ」は、結婚する花婿の親族が長い時間をかけて作り、花嫁の母親への婚資として贈られます。



貝貨（マイフオ）

貝を装飾具として用いたモノ



腕輪

↑ 植物の繊維を編んだ後、
貝ビーズを繊維に通して
模様を付けています



儀杖（官杖）



条痕文系土器
(弥生時代前期)

↑ 二枚貝を用いて紋様を付
けたものと考えられます

貝をモデルとして作られたモノ

- ▶ これらは、貝をモデルにしたり、元々貝で作られたモノを、別の素材に置き換えて作ったりしたモノです。
- ▶ 鋤形石は古墳時代の石製品で、弥生時代の貝輪を模して作ったものと考えられています。
- ▶ これらの名前は、江戸時代にその形状の類似性から命名されました。名前こそ貝とはかけ離れていますが、モデルとなった貝輪と見比べるとその再現性の高さが見て取れます。



貝輪（弥生時代）



鋤形石（古墳時代）